NPO法人 全国こども食堂支援センター
むすびえ

資金分配団体によるインフォメーション

2020年度 緊急 こども食堂への包括的支援事業（全国）
2020年度 通常 居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国）

2021年2月17日

特定非営利活動法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ
PO (プログラム・オフィサー）　渋谷雅人

アジェンダ

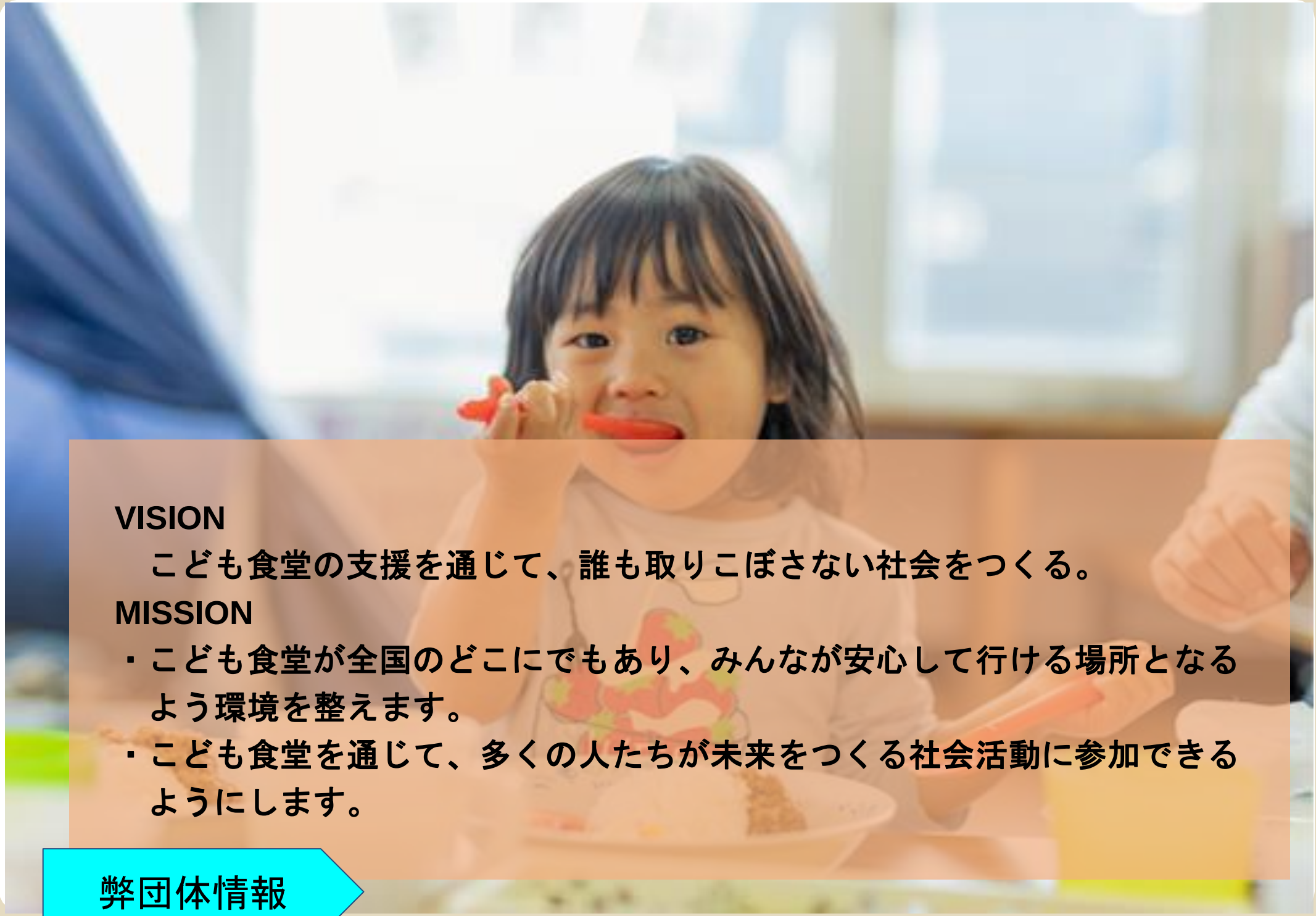
- ❑ 弊団体情報
- ❑ 採択事業概要
- ❑ 事業の実績・現状
- ❑ メッセージ

休眠預金等活用で重視すること　　＊JANPIAホームページより

財源（休眠預金）の特性（国民の資産）から以下の3点が重視されています。

- 国民、ステークホルダー（多様な関係者）への事業の透明性や説明責任
- 事業の成果の可視化⇒社会インパクト評価の実施
- 民間公益活動を担う組織の能力強化を目的とした伴走支援（プログラム・オフィサーの確保と育成など）

弊団体情報 → 事業概要 → 事業実績・現状 → メッセージ



VISION

こども食堂の支援を通じて、誰も取りこぼさない社会をつくる。

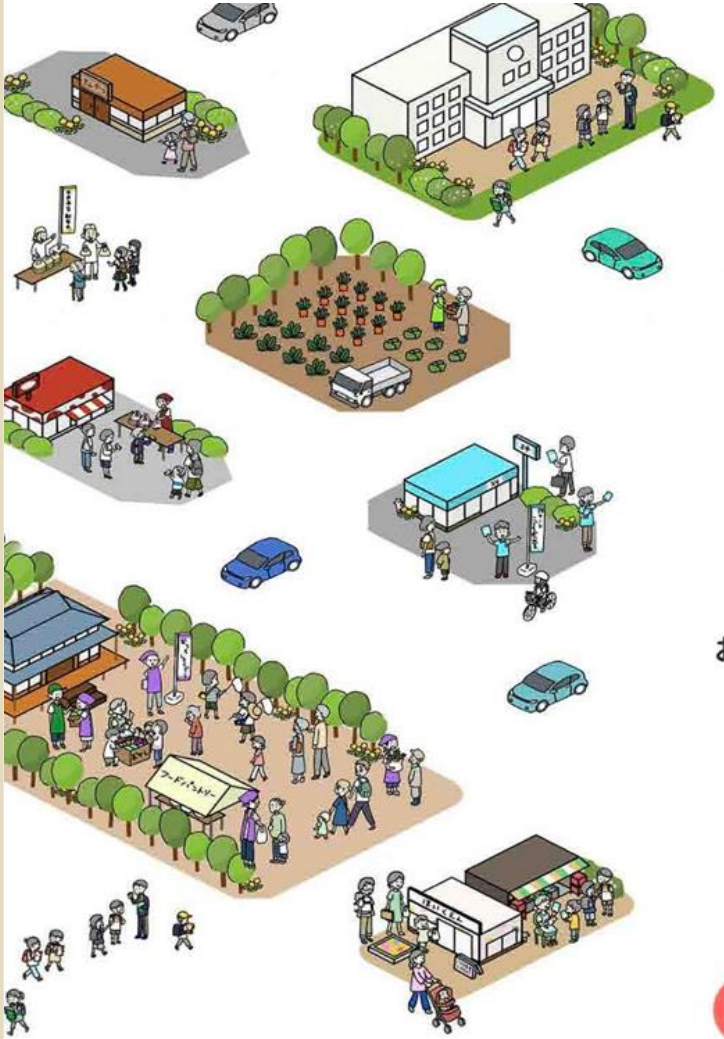
MISSION

・こども食堂が全国のどこにでもあり、みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整えます。

・こども食堂を通じて、多くの人たちが未来をつくる社会活動に参加できるようにします。

弊団体情報

目指している状態



あっちにもこっちにも
こども食堂

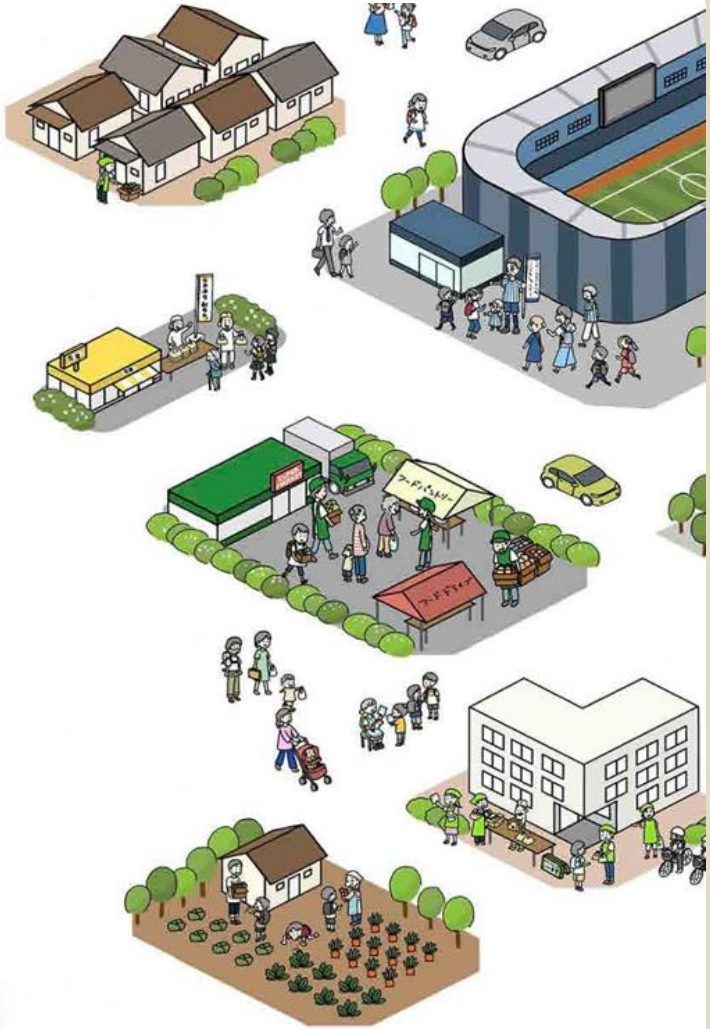
そんなやさしい未来をつくれたら、
毎日はもっとステキになると思う。

だれがやってもいい。だれが行ってもいい。
どこではじめてもいい。どんな形だっていい。

おいしくてたのしくて。いつもだれかがそこにいて。
ヒナタにいるみたいにふしぎと元気がわいてくる。

そんな居場所がある幸せを
全力であたりまえにしていこう。

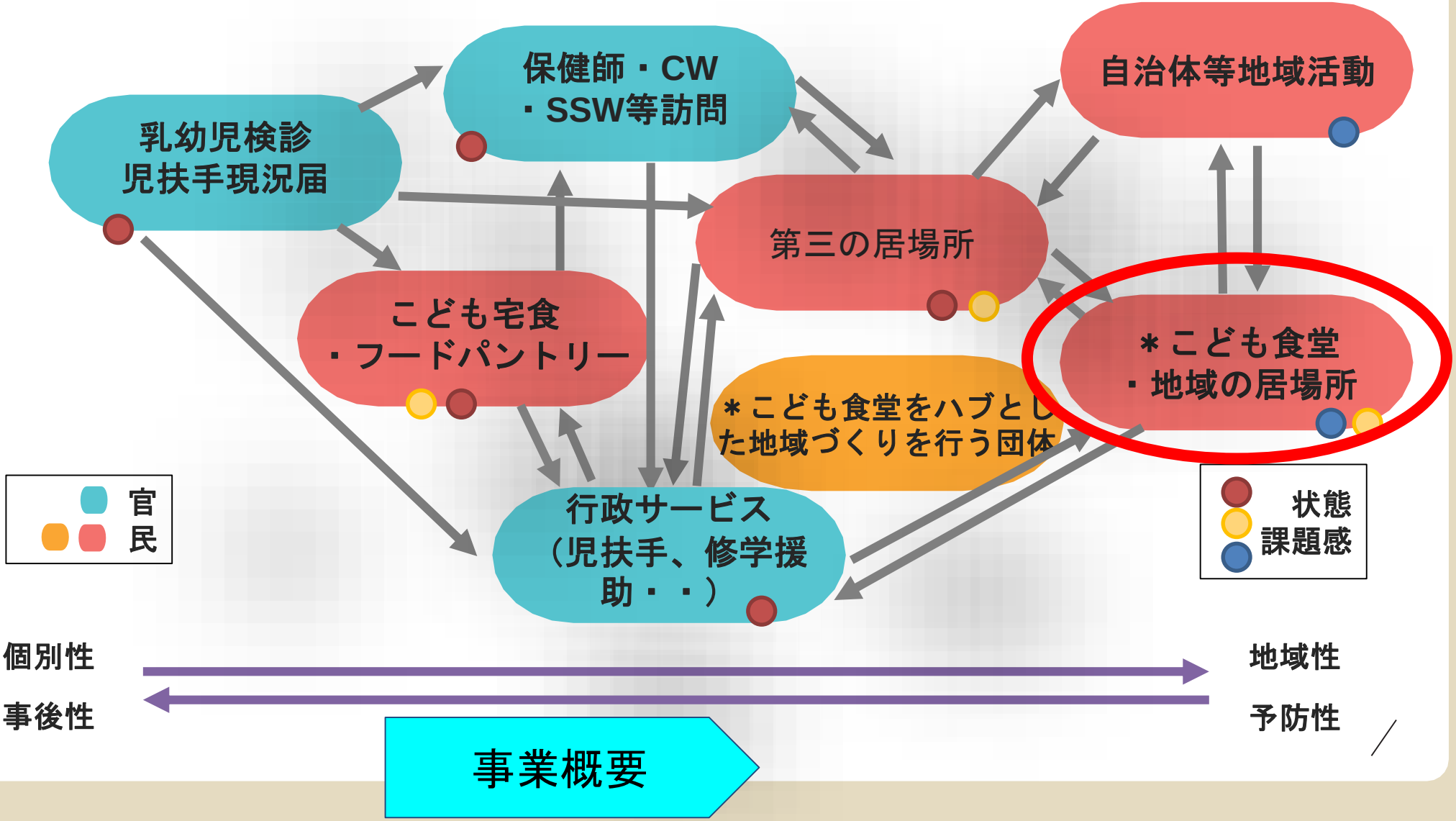
こども食堂が、あたりまえにある街



弊団体情報

「子どもの貧困対策＝地域交流の促進」モデル自治体イメージ

・個別支援から地域参加までを一気通貫で見て、小学校区単位で地域資源を充足させる
・相互に発見・つなぎ・解決し合う（相互に互いの入口となり出口となる）人がこぼれにくい官民連携による地域づくり



マクロ

箇所数（2018）＋充足率（2019）

＋こども食堂 MAP（2020）

↓

2020 ～2022

・こども食堂 MAP を地域の包括的居場所 MAP にバージョンアップ

・自治体施策の一覧（見える化）

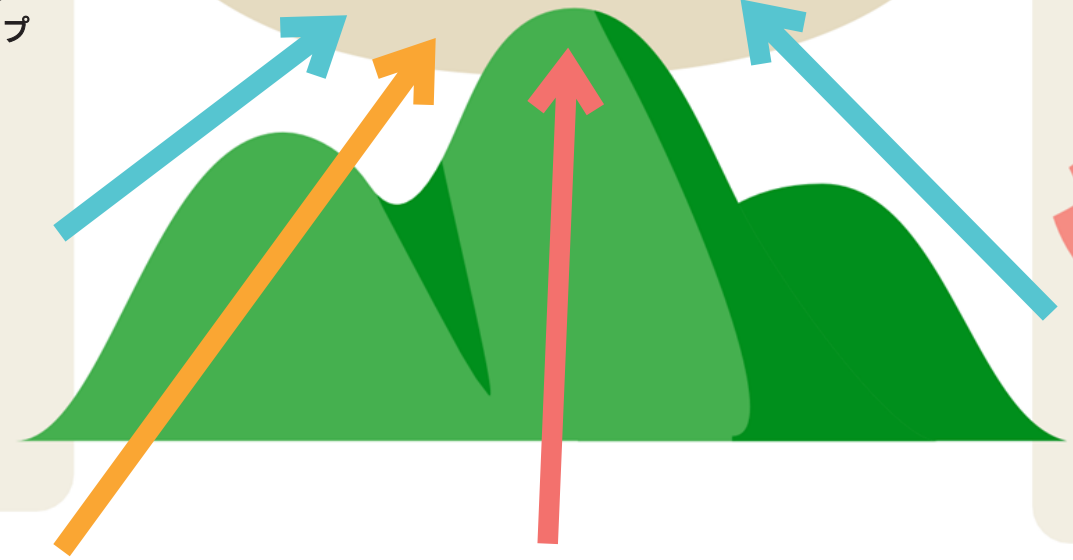
・先進自治体とのコラボ

・よりインクルーシブな地域と社会

・SDGs の日本モデル達成、東アジアへの輸出

・望ましい形での国による政策化

・交通安全の見守りくらいあたりまえに

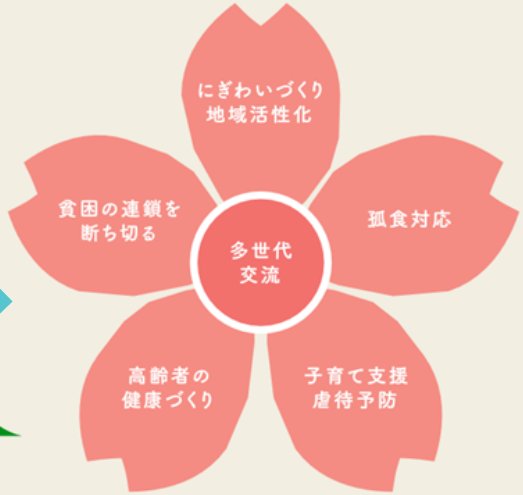


マクロ

2020 ～2022

・こども食堂運営者が大切にしている 価値の言語化

・こども食堂があることで生じた変化 の定量的可視化



休眠コロナ

メゾ

2020 ～2021

実行団体（地域ネットワーク団体）を通じた立ち上げ支援、再開支援、交流支援

↓

県単位での環境整備

休眠通常

ミクロ　メゾ

2020 ～2023

実行団体（こども食堂・こども食堂をハブとした活動を行なっている団体）を通じた
・居場所の包括連携・モデル自治体づくり
・その横展開

↓

市町村単位での環境整備

企業

事業概要

2020年度 緊急 こども食堂への包括的支援事業（全国）

ステータス

2020年11月実行団体（全国5団体）の伴走を開始し

3ヶ月経過→残り９ヶ月

助成額：37,016,000円

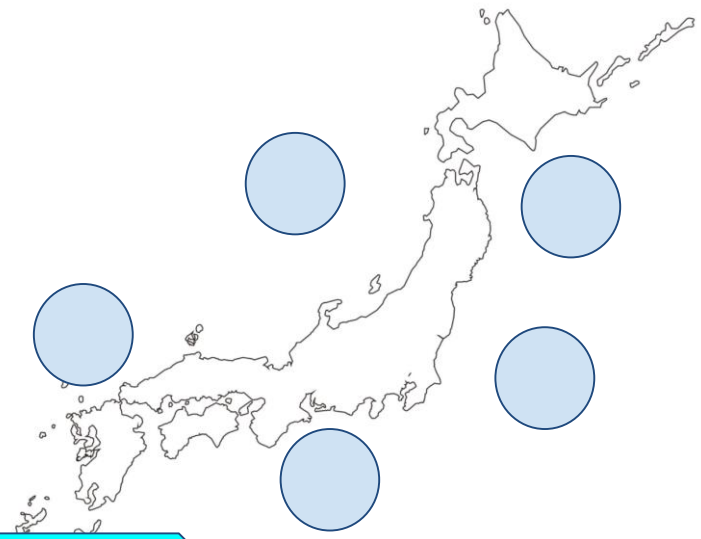
2020年度 通常 居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国）

ステータス

2月公募開始→4月実行団体採択

→5月伴走開始～3年間

助成額：125,171,000円



事業実績・現状

活動実績

価値
（アウトカム）

PO研修(40時間以上)

集合研修

Eラーニング

コーチング

POの意識変容
→行動変容

周辺領域他団体
との連携促進

共感力・俯瞰力

組織基盤強化

非資金的支援
の追求

団体内他事業
とのシナジー

伴走の実践

定期ミーティング

公募作成

実行団体との一体感

助成先→パートナー

最適パートナー選定力

中間支援組織としてのあり方の見直し
→タスクフォースの立ち上げ

メッセージ